

2024 年度 報酬改定対応

個別機能訓練加算 算定セット

<算定マニュアル>

目次

個別機能訓練加算算定マニュアル	1
評価用紙	14
計画書記入モデル	42
個別機能訓練加算に関する Q&A	54
厚生労働省資料	65

個別機能訓練加算 算定マニュアル

1. 個別機能訓練加算とは……………2
2. 単位数 ……………2
3. 算定要件のポイント……………3
4. 算定の流れのチェックポイント ……………4
5. 運営指導で指摘されやすいポイント ……………9

1. 個別機能訓練加算とは

個別機能訓練加算は、「利用者の生活機能の維持・向上を図り、住み慣れた地域で居宅において可能な限り自立して暮らし続けることを目指すため」に創設された加算です。

通所介護などには、基本的な取り組みとして「**利用者が住み慣れた地域で居宅において可能な限り自立して暮らし続けることができるように、生活機能の維持・向上を図るための機能訓練を行う**」ことが求められているため、**個別機能訓練加算を算定することは、通所介護などの基本的な取り組み**といえます。

個別機能訓練加算は、機能訓練指導員を配置し、個別機能訓練を実施する一連のプロセスを評価する加算です。そのため、**機能訓練指導員の配置状況といった体制や個別機能訓練計画の作成に関するアセスメントや多職種での計画作成、説明と同意などの要件を満たす**ことが求められます。

まずは、以下をチェックして加算の全体像を把握しましょう。

2. 単位数

個別機能訓練加算には(Ⅰ)イと(Ⅰ)ロ、個別機能訓練に関するデータを提出する(Ⅱ)の区分があります。

個別機能訓練加算(Ⅰ)イ	56 単位/日
個別機能訓練加算(Ⅰ)ロ	76 単位/日
個別機能訓練加算(Ⅱ)	20 単位/月

(Ⅰ)イと(Ⅰ)ロの違いは、
「機能訓練指導員」の配置要件です。それ以外の要件
は同様です。
次ページを参照してください。



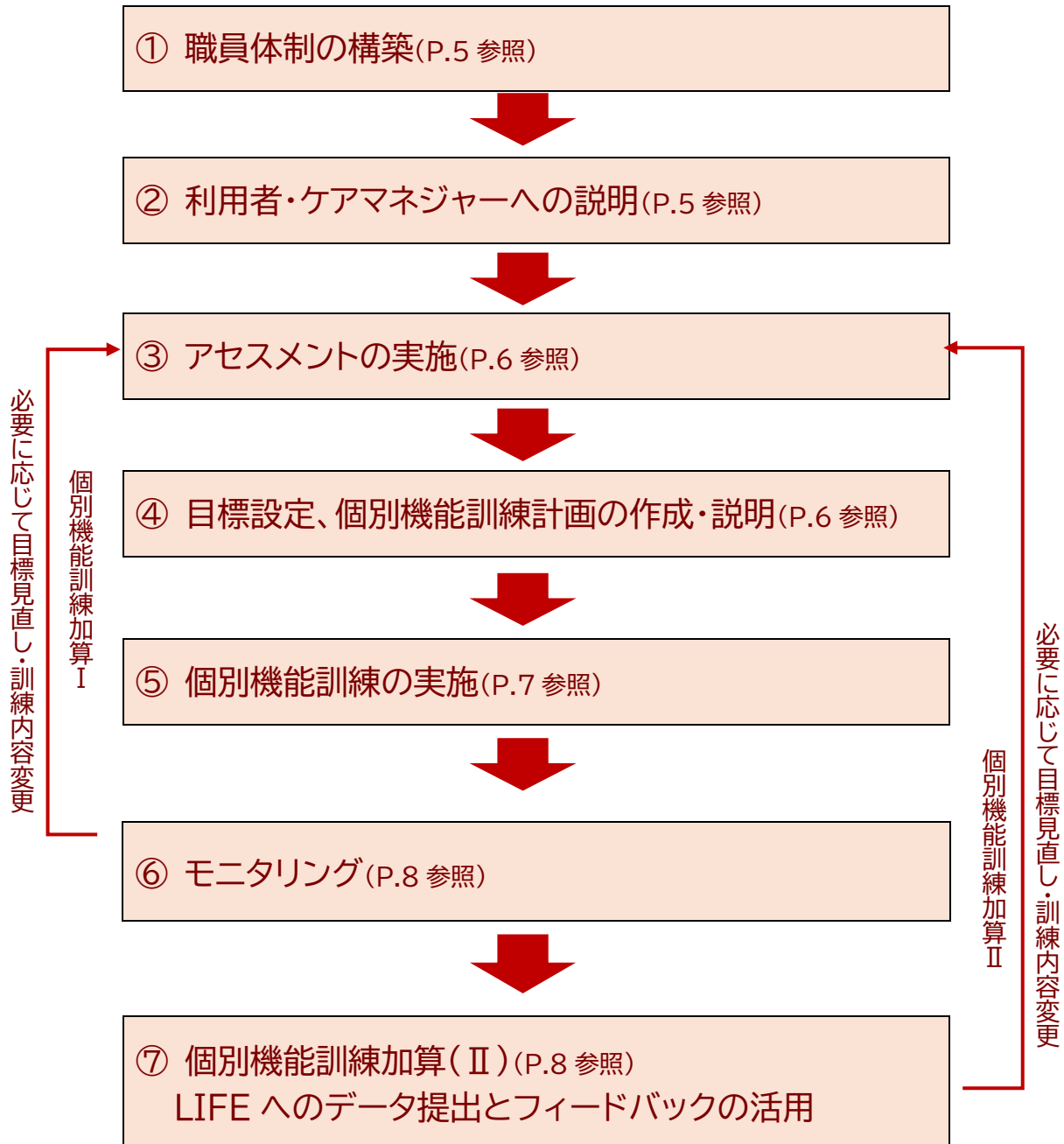
3. 算定要件のポイント

(I) イの場合
<input type="checkbox"/> 専従1名以上の機能訓練指導員を配置しているか(配置時間の定めはなし)。
(I) □の場合
<input type="checkbox"/> (I)イの配置に加えて、同一の時間帯に専従で1名以上の機能訓練指導員を配置しているか(配置時間の定めはなし)。
(I) イ・□共通
<input type="checkbox"/> 多職種が共同で、個別機能訓練計画を作成しているか。
<input type="checkbox"/> 目標は、利用者の居宅を訪問した上で生活状況などを確認し、その結果に基づいて設定しているか。
<input type="checkbox"/> 訓練項目は、複数種類を準備しているか。
<input type="checkbox"/> 類似の目標、同様の訓練の5人程度以下の小集団(個別対応を含む)か。
<input type="checkbox"/> 機能訓練指導員が直接行っているか。
<input type="checkbox"/> 週1回以上、訓練を実施しているか。
<input type="checkbox"/> 3ヶ月ごとに1回以上利用者の居宅訪問をして以下を実施しているか。 ・興味・関心チェックシート ・生活機能チェックシート ・本人(家族)へ訓練効果などの説明 ・ケアマネへの報告・相談
<input type="checkbox"/> おおむね3ヶ月ごとに1回以上、個別機能訓練の目標の見直しや訓練項目を変更しているか。
(II) の場合
<input type="checkbox"/> LIFE へのデータ提出
<input type="checkbox"/> フィードバックの受け取り
<input type="checkbox"/> フィードバックの活用(記録を残しておく)

4. 算定の流れとチェックポイント

(1) 算定の流れ

算定要件を踏まえた、算定の流れは以下のようになります。



参考:三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング「～通所介護等事業者向け～「個別機能訓練加算」「生活機能向上連携加算」を活用した効果的な機能訓練のポイント・事例集」

(2)各チェックポイント

①職員体制の構築

算定要件に従い、機能訓練指導員を配置します。また、管理者は、あらかじめ個別機能訓練の一連の実施手順を定めておかなければなりません。

また、個別機能訓練加算のプログラムは、基本的に機能訓練指導員が行うこととなりますが、介護職員などにも訓練などの取り組みの目的や効果などを伝えることが大切です。ご利用者の目標達成に向けて、多職種が連携して取り組める体制を構築しましょう。



チェックしよう！

機能訓練指導員の配置

(I)イを算定する場合、専従の機能訓練指導員を1名以上配置しているか。

(I)ロを算定する場合、(I)イの配置に加えて、同一時間帯に1名以上の機能訓練指導員を配置しているか。

個別機能訓練の実施に関する手順の設定

管理者は、個別機能訓練の実施の一連の手順を定めているか。

②利用者・ケアマネジャーへの説明

ご利用者やケアマネジャーに対して、アセスメントや意向などを基に個別機能訓練加算の目的や効果、必要な訓練などを説明し、取り組みの必要性を理解してもらうことが大切です。特に利用者に対しては、丁寧に説明し、理解が得られやすいよう、加算について説明する手紙やポスターなどを掲示するとよいでしょう(本セット<算定促進ツール・動画資料>の1ページ参照)。

また、営業日ごとの機能訓練指導員の配置体制についても、あらかじめ説明しておく必要があります。



チェックしよう！

機能訓練指導員の配置体制

営業日ごとの機能訓練指導員の配置体制を説明しているか。

評価用紙

1. 最低限の評価用紙	15
2. 現場で使える評価用紙	19

1. 最低限の評価用紙

個別機能訓練加算の算定に必要な評価用紙は、

①「全般的アセスメント(本ページ、個別機能訓練アセスメントシート)」、②「生活機能チェックシート(16 ページ)」③「興味・関心チェックシート(17 ページ)」です。

②「生活機能チェックシート」と、③「興味関心チェックシート」は 3 ヶ月に 1 回以上実施してください。

計画書は、機能訓練、栄養改善、口腔機能向上の 3 種が 1 体となったもの(18 ページ)が、簡便で使いやすいです。

別紙様式 1-4

【個別機能訓練アセスメントシート】

作成日：令和 年 月 日		前回作成日：令和 年 月 日		初回作成日：令和 年 月 日	
ふりがな 氏名	性別	大正 / 昭和		要介護度	計画作成者： 職種：
		年 月 日生(歳)			
障害高齢者の日常生活自立度：自立 J1 J2 A1 A2 B1 B2 C1 C2				認知症高齢者の日常生活自立度：自立 I IIa IIb IIIa IIIb IV V	

I 利用者の基本情報

利用者本人の社会参加の状況	利用者の居宅の環境(環境因子)
---------------	-----------------

健康状態・経過

病名	発症日・受傷日： 年 月 日	直近の入院日： 年 月 日	直近の退院日： 年 月 日
治療経過(手術がある場合は手術日・術式等)			
合併疾患・コントロール状態(高血圧、心疾患、呼吸器疾患、糖尿病等)			
機能訓練実施上の留意事項(開始前・訓練中の留意事項、運動強度・負荷量等)			

利用者本人・家族等がサービス利用時間以外に実施すること	特記事項
-----------------------------	------

III 個別機能訓練実施後の対応

個別機能訓練の実施による変化	個別機能訓練実施における課題とその要因
----------------	---------------------

※個別機能訓練の実施結果等をふまえ、個別機能訓練の目標の見直しや訓練項目の変更等を行った場合は、個別機能訓練計画書の再作成又は更新等を行い、個別機能訓練の目標・訓練項目等に係る最新の情報が把握できるようにすること。初回作成時にはⅢについては記載不要である。

生活機能チェックシート

利用者氏名		生年月日	年 月 日	男・女
評価日	令和 年 月 日() : ~ :			要介護度
評価スタッフ		職種		

	項目	レベル	課題	環境 (実施場所・補助具等)	状況・生活課題
ADL	食事	・自立(10) ・一部介助(5) ・全介助(0)	有・無		
	椅子とベッド 間の移乗	・自立(15) ・監視下(10) ・座れるが移れない(5) ・全介助(5)	有・無		
	整容	・自立(5) ・一部介助(0) ・全介助(0)	有・無		
	トイレ動作	・自立(10) ・一部介助(5) ・全介助(0)	有・無		
	入浴	・自立(5) ・一部介助(0) ・全介助(0)	有・無		
	平地歩行	・自立(15) ・歩行器等(10) ・車椅子操作が可能(5) ・全介助(0)	有・無		
	階段昇降	・自立(10) ・一部介助(5) ・全介助(0)	有・無		
	更衣	・自立(10) ・一部介助(5) ・全介助(0)	有・無		
	排便 コントロール	・自立(10) ・一部介助(5) ・全介助(0)	有・無		
	排尿 コントロール	・自立(10) ・一部介助(5) ・全介助(0)	有・無		
IADL	調理	・自立 ・見守り ・一部介助 ・全介助	有・無		
	洗濯	・自立 ・見守り ・一部介助 ・全介助	有・無		
	掃除	・自立 ・見守り ・一部介助 ・全介助	有・無		
	項目	レベル	課題	状況・生活課題	
起居動作	寝返り	・自立 ・見守り ・一部介助 ・全介助	有・無		
	起き上がり	・自立 ・見守り ・一部介助 ・全介助	有・無		
	座位	・自立 ・見守り ・一部介助 ・全介助	有・無		
	立ち上がり	・自立 ・見守り ・一部介助 ・全介助	有・無		
	立位	・自立 ・見守り ・一部介助 ・全介助	有・無		